Maison Mistral Narrow Design

MMND-Ver.1

歴史と最新技術を集約した

原点回帰、極まる

シュタイア・プフとの共同開発で生まれた1979年から、今この瞬間に至るまで、長い開発期間を終え、いよいよ完成形が走り出す。2台のメルセデス・ベンツGクラスは、実に自然なたたずまいを持って、剣那な流行がうごめく都心の雑踏の空気を変えていた。この表現は決して大げさではない。

姿カタチは昔ながらのGクラスながら、その中身は最新のG350ブルーテックである。約38年あまりもの時間を開発期間と括ったのは、この2台がほぼメルセデス純正部品をまとっているからだ。旧いモデルに現代装備を植え付けて蘇らせたレストモッド的アプローチでなければ、安直に昔風情のアフターパーツでくるんだだけのレトロ風カスタムでもない。Gクラスが歩んできた道のりを忠実になぞり、我々を魅了させてきたその表情を少しばかり切り取る。そこから、さらに厳選を重ねて調和させたのは、2017年に産声をあげたばかりのメゾンミストラルナローデザイン（MMND）である。

現在、世に存在するMMND-Ver.1は2台。1台は開発車にして現デモカー。2014年型G350ブルーテックを元に製作した、もう1台は現在販売中だ。価格は1480万円(税込)。今後は車両持ち込みによる製作も請け負う方針という。

たとえば、ブラックアウトされたスチールグリルと、五角形のヘッドライトシュラウドからナローに絞り込まれた造形がもたらす顔つきはW460のものだ。これを具現するためにヘッドライトまわりからフェンダーまでの大改造が必要とされた。その効果はてきめんで、多くの人は昔のGクラスが新車で飛び出してきたと思うだろう。とはいえ、エンジンをかけると鮮やかなバイキセノンヘッドライトが自動で照射される。いかにクランカルな造形でも、視認性や校視認性といった安全性を犠牲にしないのが彼らの考え方だ。

時間軸と共に積み上げられた性能を犠牲にしない新旧の融合は他にも随所にみられる。か細い鉄の棒に固定しただけの素朴なサイドミラーは、もともとW461時代の純正部品。しかし、電動調整機能が付くばかりか、ドアミラーブラケットをみればサイドビューカメラまで仕込まれる。運転席から直視確認できない路面側方の映像を、車内の7インチワイドディスプレイに表示させる。さらにバンパーに埋め込まれたセンサー類に示されるように、実は安全装備自体は最新型と遜色がない。ディストロニック・プラスにパークトロニック、ブラインドスポットアシストなどはすべてが活かされている。

MMNDがオリジナルで開発したというホイールは、重用車両用らしい無骨なもの。開発過程においては軍用ビードロックホイールを試したものの、重量増による弊害を考慮し、または日本の道路交通法に則ってオリジナル品を製作した。日常のシーンを想定しながら、Gクラス専用に相応しい耐荷重性能を持たせ、ブレーキとのクリアランスも徹底的に煮詰められている。

インテリアも見ものだ。W460時代の細いテーパー状ドアハンドルを握りドアを開け、車内に身を滑り込ませると、そこには最新型のメルセデスらしい光景が拡がる。日本仕様をベースにしているので、もちろん右ハンドルだ。しかし、よく見ると外観と調和させるためにトリムやダッシュボードに点在していたメッキ系の光りモノはすべて黒一色に。その上で高級機械式時計のような質感を持つセンターベゼルに置き換えられた。また、唯一のドレスアップとして、ドアインナーパネルには贅沢なクロコダイルレザーが敷き詰められている。高機能な道具の中に、ほんのわずかにラグジュアリーな雰囲気と遊び心を仕込ませたような、そんな粋な配慮が嬉しい。

思えばGクラスは、タフなオフローダーとして誕生しながらも、次第に乗用車方向へと舵を切り、やがてAMGモデルの登場に伴ってハイパフォーマンスSUVとして成長してきた。そうした意味では、オフローダーとしての役目を終え都会で猛威をふるい始めた時、Gクラスは本来のコンセプトとの決別を余儀なくされた。身に備わる鍛え上げられた筋肉を存分に使えず、世のニーズのもとドーピングを打たれ、また無駄な脂肪を蓄えざるを得なくなった。

だからこそ、今あらためて原点回帰したかのようなMMNDのスタイリングが新鮮に映る。最新は日々"進化"するものだが、原点は決して"変化"しないことを再確認する。Gクラスの歴史を凝縮して詰め込んだようなこのパッケージは、コンプリートカーとしてすでに販売が開始されている。車内の装飾など一部はオーチュールではあるが、今後は様々な仕様が世に登場するはずだ。「最新のGクラスが有する先進的な安全装備や、オンオフを問わない抜群の走破性を備えながら、剣那な流行を超越した普遍的な魅力を放つ。これなら、たとえ今後Gクラスがどのように進化を遂げても我関せず。塗装が色褪せるまで、一生モノとして乗り続けていたくなる。

38年のGクラスの歴史において、特に前半のW460とW461の表情が盛り込まれている。ブランド名の由来となったナローフェイスやドアミラー、サイドステップ、前後バンパーなどは、随所がクラシカルな造形。コンプリートカーにはすべてコーションプレートが付く。オリジナルホイール(BLS16)は単体供給される。

インテリアの造形ほか、安全&快適装備は最新型のもの。ブラックアウトインテリアやオリジナルセンターベゼル、クロコダイルドアトリムはオプションアイテムとなる。

PRICE LIST

MMND-MIL Ver.1	ASK
MMND-SEC Ver.1	1480万円

(2014年式G350ブルーテックベース／走行距離3000km)

※価格は税込。ベース車両により価格は変動します。